第６７回　容量市場の在り方等に関する検討会　議事録

１．開催状況

日時：２０２５年9月1日（月）１３：３０～１４：３５
場所：ＷＥＢ開催

出席者：
圓尾　雅則　座長（ＳＭＢＣ日興証券株式会社　マネージング・ディレクター）
秋元　圭吾　副座長（公益財団法人地球環境産業技術研究機構　システム研究グループリーダー・主席研究員）
安念　潤司　委員（中央大学法科大学院　教授）
小宮山　涼一　委員（東京大学大学院工学系研究科　教授）
林　泰弘　委員（早稲田大学先進理工学研究科　教授）
松平　定之　委員（西村あさひ法律事務所　パートナー）
松村　敏弘　委員（東京大学　社会科学研究所　教授）
牛尾　剛　オブザーバー（一般社団法人送配電網協議会　ネットワーク企画部長）
岡本　浩　オブザーバー（東京電力パワーグリッド株式会社　取締役副社長執行役員）
斎藤　祐樹　オブザーバー（株式会社エネット　取締役　経営企画部長）
高橋　良太　オブザーバー（イーレックス株式会社　執行役員　需給戦略室長）
辻森　耕太　オブザーバー（関西電力株式会社　エネルギー・環境企画室　企画担当部長）
鳥居　敦　オブザーバー（東京ガス株式会社　電力事業部　担当部長）
森　正樹　オブザーバー（電源開発株式会社　経営企画部長）
栗谷　康正　オブザーバー（電力・ガス取引監視等委員会事務局　取引監視課長）
小柳　聡志　オブザーバー（資源エネルギー庁　電力・ガス事業部　政策課　電力産業・市場室長）

欠席：
國府田　和彦　オブザーバー（伊藤忠エネクス株式会社　電力・ユーティリティー部門　電力需給部長）

議題：
（１）　容量市場　追加オークション約定結果について
（２）　長期脱炭素電源オークション募集要綱に関する意見募集の結果について
（３）　容量市場の年次精算について

資料：
【資料１】議事次第
【資料２】委員名簿
【資料３】容量市場　追加オークション約定結果について
【資料４】長期脱炭素電源オークション募集要綱に関する意見募集の結果について
【資料５】容量市場の年次精算について
【別紙１】２０２５年度長期脱炭素電源オークション募集要綱（案）
【別紙２】長期脱炭素電源オークション容量確保契約約款（案）

２． 議事

（１） 容量市場 追加オークション約定結果について

○ 事務局より、資料３に沿って、「容量市場 追加オークション約定結果について」の説明が行われた。

［主な議論］

（松平委員）

ご説明いただき感謝する。私からは、供給信頼度を整理いただいた１９ページについてコメントさせていただく。今回、追加オークションを実施したが、特に東京エリア等について、高い数字が最終的に残っていることで、この数字をどのように評価するのが適切なのかについて、私自身は、十分な理解がないところではあるが、やはり目標値に比べると大分乖離があるという印象を持った。例えば今年、非常に暑い日がこの夏も続いているが、一般送配電事業者はじめ関係事業者様のご努力で、今の所、大きな問題は今年については生じていないという認識である。他方で電力供給の問題が起こるのは、むしろ少し季節外れの秋口とか、あるいは春先で想定外に気温が上がったり、あるいは低かったりする場面で検査に入っている発電所もある中で、危機が生ずるということもあり、まだ気は抜けない状況と捉えている。いずれにしても２０２４年、２０２５年度と実需給年度を迎えている中で、例えば今年２０２５年度についても、記憶が曖昧ではあるが、一部のエリアについてやはり供給信頼度で、赤が残る状態で今年２０２５年度実需給年度を迎えており、実際気温が高かったといった状況がある中で、実際想定していた信頼度や、目標値との乖離と、それから実年度における実態がどうであったか、そして今、出ている数字あるいは去年の追加オークション後の供給信頼度で、特に数字が高かったエリアについて、どう評価するのが適切であったのか、より危機をギリギリだったという評価になったのか、あるいは実際には実需給上、数字程の危機はなかったのか、その辺りの実績を踏まえた状況を、今後少し教えていただけると有難い。それが逆に今後、このような供給信頼度の数字を見ていく上で、やや目標値よりも上振れする、下回っていると言うべきかも知れないが、その辺りが慣れみたいなのも怖いし、そうであれば実はあまり危惧するような状況でないとすると、むしろ目標値が高すぎるということでもあるのかも知れないので、その辺り実需給年度の状況等も踏まえて教えていただけると有難い。

（岡本オブザーバー）

ご説明いただき感謝する。私からは、意見として３つ申し上げる。まず一つ目は、２６ページの追加オークションの結果について、今も松平委員からも話があったが、信頼度が満たされていないということについて意見する。こちらについて私共は、容量市場というのは、４年前から供給力を確保しており、実際に実需給年度の前の段階からいわゆる停止調整に入っていく。必要な設備量が確保されていないと、停止調整が非常に困難になっていくことで、容量市場が信頼度基準を満たすことがないとすると、必要な供給力が確保されていないという意味になると考えており、正に来年度の需給を考えると非常事態ではないかと考えている。これまでの検討会でも再三申し上げていることだが、これから２０２６年度に向けた停止調整を実施しても、設備、電源そのものが足りずに供給力が不足するという可能性が十分あり、そのことを信頼度評価の数字が示しているため、少なくとも次回以降は、オークションに向けて応札事業者を増やしていただくような改善策の検討が必要ではないかと考える。私共は、容量市場の目的から考えて、未達が頻発している昨今の情勢については、異常事態であり市場の目的は達成されていないと認識している。信頼度未達と供給力不足の関係について、広域機関としてどのように捉えておられるか是非見解を伺いたく、現状、私共の認識とギャップがある可能性があるとも感じており、そこが心配なのでお尋ねしたい。また、検討会としてもこのように論点がずれてしまうということを、私は心配している。有識者の委員の皆様方にもご意見、ご見解があれば伺いたい。二点目だが、前回の包括的検証の議題の際に発言させていただいたが、追加オークションで未達が発生している状況にあるということで、何故、そのエリアで未達が発生しているか、事業者が存在していて未達なのか、それとも応札対象の事業者がいないのか、中身を整理いただきたいと考える。２６ページにも電源への追加処理で、追加できる電源がなくなったと記載があるが、これは十分な応札が今回はなかったということであろう

が、応札し得る電源が、物理的に存在していないのか、休止や長期計画停止となるような電源がないのか、応札があった電源情報をまとめるだけではなく、未達への対応も考慮し応札がなかった電源情報も併せて示していただきたいと考える。三つ目は、昨今の厳しい気象状況ということで、この夏も広域機関、国とも協力させていただきながら、タイトに綱渡りでの需給運用を続けており、このような中でリスクに対する備えを十分にしておく必要があると考えており、今回のオークションで未達になったことを踏まえ、現時点において、実施可能な対策について早急に検討を進めていただきたいと考える。２０２６年度の需給対策は、これから国とも連携して検討されるであろうが、供給力が足りず、追加で電源の調達が必要となる可能性は十分にあろうと考えている。２０２４年度から容量市場が導入されているため、必要な電源は、容量市場の一連の枠組みの中で確保すべきと考えている。容量市場の枠組みの一つとして、特別オークションというものが用意されており、容量オークションにおける調達不足の場合、または事前に決まっていない政策的な対応が必要になった場合等に実施するオークションであるとされている。正にこの枠組みを適用する状況ではないかと私共は考えており、電源の更なる調達、先ほどから電源と申すのは、いわゆるデマンドレスポンスも含めた話をしているが、更なる調達に備え２０２６年度の実需給に間に合うよう、特別オークションの開催について、国と連携して是非検討していただきたいと考える。

（小宮山委員）

ご説明いただき感謝する。私も１９ページの供給信頼度の結果について、少しコメントさせていただく。今回、追加の約定処理、追加処理も行った結果、北海道、東北、東京、中部、並びに九州において、今回、未達の状況に、不足する状況になったということで、ご報告いただき感謝する。これまでの経緯を少し振り返ると、今回、供給信頼度、目標調達量に関しては、これまで一部改善の計られた指標等があったと認識している。例えば偶発的需給変動に関しては、厳気象対応分に関しては、以前よりも改善が図られたものと認識しており、それらを反映して、供給信頼度、目標調達量を設定して今回、追加オークションで約定処理を行ったと、その上でも今回これらお示しいただいた５エリアにおいては、不足という結果になったということだと認識している。こちらは、次年度に向けて、実需給年度の結果ということだが、こちら追加オークション、恐らく実施時点での電力、供給力の情勢を反映した結果であると認識している。恐らく、２０２６年度の需給の見通しについては、今後更に、最新の情勢を踏まえた見通しが示されると認識しているので、恐らく今回の追加オークションの傾向も踏まえた見通しが出るものと認識はしているが、この結果を拝見すると、ＥＵＥの電力の供給力の不足量の期待値、やはり東京エリアが、少し総体的に大きいという結果になっているので、こちらしっかりと受け止めた上で、次年度、実需年度２０２６年度の需給への対応を、今後しっかり考えていただければと期待する。

（松村委員）

今回示されたこと、色々な情報を的確にまとめていただき感謝する。今回の議題について特に異論はないが、次回以降のメインオークションでもまた議論しなければいけない、それで追加オークションの結果も踏まえ、考えなければいけないことがあることも皆、認識しているであろうが、今、私から言う必要もないだろうが、念のため申し上げる。発動指令電源に関して、もともと、メインオークションで９８％、追加オークションで２％と調達する。勿論色々な変化に応じて変わるわけだが、そのような割り当てになっており、しかも２％のうち１％分は、発動指令電源が入ってきても大丈夫なように、上限で引っかからないという格好になっている。今回、応札して下さったものが全部落札できたことは、それはそれで良いことと感じるが、１％分取りおいた分に比べれば、遥かに少ない。これは、メイン、追加も含め、全体として出てきている問題ではないかと感じた。そうすると、この結果を踏まえて、メインと追加の割合はこれで良いのか、今回結果を踏まえて少し考える余地があるのではないか。基本的には、エネ庁の委員会で議論することであろうが、例えば発動指令電源の１％分を少し減らして、メインの方に持っていく。勿論メインの方に持っていったとしても、それは発動指令電源の割り当てではないので、上限はその分増えるであろうが他の電源の方が勝って落札することも当然有り得る。いずれにせよ、メインと追加の割合についても変えるという検討が必要ないのかは次の段階から考えていくことで良いと感じた。少なくとも、以前ではもともと追加オークシ

ョンはやることが予定されていたのにも関わらず、全国でやらないというような自体が起これば、今、言ったものと逆方向なので、減らすべき事象も、増やすべき事象も両方出てきて対応が難しかったわけだが、今回の事象からすると、ひょっとしたらメインの方を増やす方が良いかもしれないということは出てきているが、逆は必ずしも出てきていないことを踏まえれば、そのようなことが次回以降検討に上がることを期待する。次に、東京エリアで信頼度がという話だが、これは、容量市場の話、あるいはＥＵＥの話が始まる前からずっとある話で、これは予備率だけで、管理していた頃から他のエリアに比べて、脆弱だということはずっと言われてきたと感じている。言われる度に私は、全く同じことを言い、全く採用される可能性がないのにもう一回言うのも無責任な気がするが、もう一度申し上げる。そのような特定のエリアというのは、ずっと恒常的に色んな意味で、供給力の不足が懸念されることであるとするなら、例えばコジェネのようなものをそのエリアに特に集中して補助する等できないのでしょうか。補助を全国で出すということがあれば、このエリアは特にということで上乗せする等、できないのでしょうか。家庭用も含めて例えばデータセンターで太陽光発電とコジェネを組み合わせて、基本的に自分の所で電源を賄うという計画が出てくるとすれば、特に東京エリアで後押しするとかも含め、そのようなエリア限定の対策はできないのでしょうかということを、採用されないのも承知の上で、もう一回言うのも卑怯な気もするが、再度申し上げる。その上で、１０年以上も前からずっと同じことを言っているが、その話を１０年以上前からずっと聞いているはずの人が、全くサポートする気もないという人、勿論それがおかしいとは言わないが、今、私が言ったことはそれなりの問題があるからで、でもそこで発生するであろう問題と、ここでＥＵＥの観点から供給力が足りないことへの危機というのを、あえて考えれば危機というのは、そこで発生する問題というよりも遥かに重要な問題だとすれば、サポートして当然であるにも関わらず、それに対して全くサポートしなかったという人が、危機と大騒ぎすることに、どれくらい信憑性があるのか。そのような政策を取ることに対して、全くサポートしない、そこで発生する問題が重要だということで、危機はあるのだけれどその問題に比べれば小さなものだからこそ、サポートしなかったわけで、ものの一面だけ切り取って危機だと騒ぐことが、どれほど最終的に負担を強いられる消費者に響くかは、よくよく考える必要があると捉える。

（岡本オブザーバー）

私の発言で誤解を招いているといけないので、改めて考えを述べさせていただくが、我々自身は今、現状のあるいは今年度もそうだが、今の需給状況について、私共も現場を預かっているので、お知らせする義務があるだろうと考えており、発言させていただいている。色々な施策というのは当然あり得ることで、供給力を増やしていくことが非常に大事だと捉えており、正に目安となるのは、信頼度基準であり、これが昨年度結局未達だったと感じていたが、数字が著しく上がっていることが、非常に需給上リスクがあることで、現状この数字を見ると、来年の高需要期に向けて色々な手を打っていかなくてはいけないと考え発言したという趣旨で、特定の何が良い、何が良くないということではなく、全体として需給対策が必要という信頼度評価の結果になっており、正にここから手を打っていくべきだという趣旨であり、ご理解いただければと考える。

（事務局）

ご質問ご意見いただき感謝する。特に岡本オブザーバーからいただいたご意見等は、本容量市場検討会だけに限定された話ではないため広域機関として回答させていただく。今回のオークション結果が問題かどうかだが、私共としては、今回の結果が直ちに問題があるということではないと考えている。今後、具体的な需給の状況等、確認については、例年通りとなるが今後、需給検証や供給計画のとりまとめ等を通して、より具体的な状況を確認し、引き続き国と連携して、必要な対応をしていくと考えている。このような中で、必要な対応というところで、ご提案いただいたような特別オークションや、その他諸々も含め、どのような対応が効果的なのかは国の見解も含めて、対応していきたいと考える。また、前回の検討会の中でも紹介したが、今年度、包括的検証に取り組んでおり、その中で、前回様々なファクト、検討する材料を提示した。今後、今年の夏の需給の状況についても従来通り公表していくので、こちらもご覧になった上で、事業者の皆様からお知恵を貸していただきながら、必要な検証を進めていければと考える。

（圓尾座長）
色々とご意見いただき感謝する。いくつか検討して欲しいという形で預けられたことがあるかと感じるが、事務局、国の方とも議論を重ねていきたいと考える。今回の約定結果については、本検討会での説明と共に、国の審議会でも説明を行ってまいる。事務局の皆様には今回の結果を踏まえながら、実需給期間に向けた準備を進めていただくよう、お願いする。

（２）長期脱炭素電源オークション募集要綱に関する意見募集の結果について

○ 事務局より、資料４に沿って、「長期脱炭素電源オークション募集要綱に関する意見募集の結果について」の説明が行われた。

［主な議論］
（秋元委員）
ご説明いただき感謝する。念のため、一点だけ確認させてほしいが、８ページ目のＣＡＰＥＸについて一回だけ補正と書かれているが、読み方がわからなかったが、ＣＡＰＥＸといえども、運開するまで何回か支払いがあったりするだろうが、そこは当然、毎年の支払い時点での物価補正を使って補正していくということでよいか。ここでの毎年補正のところを、一回補正に変えるということと理解したがそこのところ、やり方をもう少しご説明いただけると有難い。

（事務局）
１１ページ目に参考で載せているが国の中間取りまとめで赤枠で囲っている部分が正に変更したところで、このＣＡＰＥＸのところは、製造輸送費の建設費であるとか、運転開始前に必要となる費用、許認可の取得費のところをＣＡＰＥＸとしており、この製造輸送費が完成するまでの間に必要となってくる費用について、このような形で一回だけ補正させていただくところであり、ＯＰＥＸについては、水素等継続的に供給が必要な費用で、毎年物価補正をかけながら変化していくというようなことである。

（秋元委員）
１１ページは、理解しており、ちょっと記載の方法が少しクリアではなかったので、１１ページの通りに変えると理解して大丈夫か。

（事務局）
１１ページの通り、修正させていただくということである。

（圓尾座長）
ご説明ありましたように長期脱炭素電源オークションでは、募集要綱と約款の公表を予定しており、応札に向けた参加登録を１０月に開始、応札期間を１月に予定となっている。事務局の皆様には、本年度に追加された内容など説明資料などで周知していきながら、参加する事業者のサポートをよろしくお願いする。

（３）容量市場の年次精算について

○ 事務局より、資料５に沿って、「容量市場の年次精算について」の説明が行われた。

［主な議論］

（圓尾座長）

容量市場では、今回初めて年次精算を実施するので、事業者向けの説明会を行うなど、丁寧なやりとりを予定している。事務局の皆様には、本日の内容を事業者向けの説明会資料にも反映しながら、周知をよろしくお願いする。それでは本日の議題は全て終了した。これを以って第６７回容量市場在り方等に関する検討会を閉会する。

以上